

秋田市建都400年記念事業  
ロゴマークおよびキャッチコピーの決定について

## 1. ロゴマークについて

採用作品：「株式会社アルテ」デザイナー 福森普子さんの作品



(説明)

漢数字を使うことで、歴史ある秋田の風格を感じさせるマークにした。一方で、一大イベントであることを考えて、色合いや様々なフォントスタイルを取り入れ、明るく元気な印象を心掛けた。また、「百」の字を通過するビジュアルで、時の流れをも表している。

福森普子(ふくもり・ひろこ)さん

秋田公立美術工芸短期大学 産業デザイン学科卒(平成13年度卒)

同短大の卒業生4人を中心としたデザイン会社「株式会社アルテ」(秋田市千秋城下町5-56)所属のデザイナー。これまで「世界水会議と第3回世界水フォーラム」(H13)の共通ロゴマークや「日中友好30周年」(H14)のロゴマークなど、多くの国内コンペで採用された実績を有する。

佳作：2点

- (1)北海道小樽市 斉藤哲哉さんの作品
- (2)秋田市新屋 近藤 満さんの作品

## 2. キャッチコピーについて

採用作品：実行委員会が作成

日本にあきた *La·Akita*

(説明)

日本の歴史・400年の歴史という大局的見地から、今一度「あきた」を再発見することにより、その存在感をアピールしていこうとするものである。「日本にあきたあり!」「日本に飽きたら秋田においで!」このキャッチコピーには「洒落」も織り交ぜ、秋田の魅力を引き出すとともに、市民の意識を高めていこうという強いメッセージが込められている。

また、秋田市の明るい未来と新たな時代の出発をイメージするため、心地よい表音の「La」というフランス語を市名に冠し、斬新さを打ち出した。

佳作：2点

- (1)400年 継いで栄ゆるこの伝統(秋田市飯島 岩間喜太郎さんの作品)
- (2)ずーっと秋田 未来へ秋田(滋賀県大津市 久保貞人さんの作品)

特別賞：1点

秋田市立寺内小学校4年生のみなさん

### 3 . ロゴマーク等の使用について

今後、ロゴマークとキャッチコピーは、ポスターやパンフレット等、記念事業のPR等に幅広く活用するほか、この記念事業が本市はもとより全県域を巻き込んだ市民参加型の祭りであるという趣旨を踏まえ、民間団体や市民主体による地域イベント、展示会等でも使用が可能。(「秋田市建都400年記念ロゴマーク・キャッチコピー使用承認要綱」に基づき使用承認する)

使用の申し込みに関する問い合わせは、秋田市企画調整課内の実行委員会事務局まで。  
(電話018-866-2032)

## (参 考)

### 1．秋田市建都400年記念事業について

初代秋田藩主佐竹義宣が、現在の千秋公園に築いた久保田城に入城し、今日のまちづくりの礎を築きあげた1604年（慶長9年）から数えて400年となる平成16年に「秋田市建都400年記念事業」を実施しようとするものである。

事業の実施にあたり、基本理念を「歴史を想い、今日を祝い、未来へ遺す」とし、歴史を振り返り、今日のまちに活力を創出するとともに、秋田市発展の新たな出発を期することとしたものである。

秋田市建都400年記念事業は、事業全体を行政が中心となって実施するのではなく、市民や民間団体などと一体・一丸となり、全県域を巻き込みながら取り組むこととしている。

昨年6月には、有識者や商工・文化団体をはじめマスコミ関係者など、各界各層の市民代表で構成する実行委員会を設置したところである。（委員名簿は別紙）

これまで、昨年2回の実行委員会を開催し、記念事業の基本理念を定めるとともに、基本的方向についての審議を重ねている。また、ロゴマーク・キャッチコピーについては、実行委員会および実行委員の代表で構成される実務委員会での審議を経て決定した。

### 2．今後の予定について

15年度は、平成16年の事業実施に向け、実行委員会の中に専門部会等の実務的組織を設けるとともに、建都400年記念を冠したいくつかのイベントの実施を予定している。

メインとなる16年度の事業については、今後、実施計画を取りまとめ、記念事業の目玉となるコア事業や関連事業の内容について検討を進め、市が行うべきもの、実行委員会が行うべきもの、市民主体となって実施するものなど整理し、効果的な事業展開を図ることとしている。

#### (参考)

平成14年	7月8日	秋田市建都400年記念事業実行委員会 設立
	8月2日	第1回実行委員会（設立総会）
	8月23日	～企画アイデア・ロゴマーク・キャッチコピーの一般公募
	10月16日	第2回実行委員会（基本的方向の決定、応募作品の検討）
	12月10日	実務委員会 開催（ロゴマーク・キャッチコピー（案）の審議）
	12月27日	ロゴマーク・キャッチコピーの決定
平成15年	1月10日	記者会見（ロゴマーク等の公表）
	1月中旬	イベントカレンダー作成のための準備
	2月	カレンダーのデザインコンペ開催
	3月	第3回 実行委員会（次年度の予算・概要等について説明）
	6月	イベントカレンダー完成
	8月	イベント等の実施
平成16年度	9月	第4回実行委員会（部会による事業計画（案）の提示）
		記念事業の開催

#### 建都400年に関連するその他の動き

- ・ 県都開創400年記念能公演（秋田県謡曲連盟、秋田能と狂言に親しむ会）  
（平成15年4月開催予定）
- ・ 秋田市建都400年記念郷土創作オペラ公演（秋田市文化団体連盟主催）  
（平成15年10月開催予定）

### 3. 秋田市建都400年実行委員会名簿

名誉顧問	佐竹宗家	佐竹 百合子
顧問	秋田市長	佐竹 敬久
	秋田商工会議所会頭	辻 兵吉
	前秋田経済法科大学学長	井上 隆明
	社団法人秋田市文化団体連盟会長	山田 幸子
参 与	秋田市助役	相場 道也
	秋田市助役	松葉谷 温子
実行委員長	株式会社本金西武取締役会長	小玉 得太郎
総合プロデューサー	作家・秋田公立美術工芸短期大学学長	石川 好
実行副委員長	日本放送協会秋田放送局長	辻 篤男
	秋田市市政懇談会会長	三浦 廣巳
	秋田商工会議所専務理事	青山 鈞
	秋田市教育長	飯塚 明
	秋田市企画調整部長	畠山 茂
実行委員	秋田市立佐竹史料館協議会会長	田口 勝一郎
	秋田大学教育文化学部助教授	渡辺 英夫
	女優	浅利 香津代
	株式会社佐竹管理事務所専務取締役	吉末 悟
	秋田商工会議所企画政策委員長	賢木 新悦
	秋田商工会議所青年部会長	吉田 喜廣
	社団法人 秋田青年会議所理事長	深沢 功
	株式会社 秋田魁新報社事業局長	奈良 年明
	料亭濱乃家専務	竹島 仁子
	株式会社旅館栄太楼代表取締役社長	小国 輝也
	秋田市教育委員	藤盛 節子
	秋田市都市景観形成推進委員、市政懇談会委員	太田 宥子
	秋田市商工部長	藤本 六男
監 事	秋田市収入役	保坂 五郎
	秋田商工会議所事務局長	高村 勝雄

#### 実務委員会

総 括 小玉得太郎(委員長)、石川好(総合プロデューサー)、辻篤男(副委員長)  
 実務委員長 賢木新悦(実行委員)  
 実務委員 太田宥子(実行委員)、奈良年明(実行委員)、深沢功(実行委員)

事務局(秋田市企画調整課内)

#### 4 . 秋田市建都400年に関する年表

西暦	年号	記 事	市制
1602	慶長 7	佐竹義宣公、常陸太田から移封 湊城へ入る（秋田入部）	
1603	慶長 8	久保田城築城着手	
1604	慶長 9	久保田城完成、入城	
⋮			
1889	明22	市制施行	
⋮			
1938	昭13		市制50年
1949	昭24		市制60周年
1953	昭28	「秋田市建都350年祭」開催（久保田城築城着手から350年） （県内各地の祭りが集合）	市制64周年
1959	昭34		市制70周年
1969	昭44		市制80周年
1979	昭54		市制90周年
1984	昭59	「秋田市建都380年祭」開催（久保田城完成・入城から380年） （鎧武者祭り）	市制95周年
1989	平元		市制100周年
1999	平11		市制110周年
2002	平14	佐竹義宣公秋田入部(1602)から起算し400年 <b>建都400年記念事業実行委 設立</b>	市制113周年
2003	平15	久保田城築城着手(1603)から起算し400年 <b>イベントの実施</b>	市制114周年
2004	平16	久保田城完成・入城(1604)から起算し400年 <b>「秋田市建都400年記念事業」開催</b>	市制115周年